

NEWS RELEASE

2022.01.14

代表取締役社長の交代について (4月1日付)

阪急電鉄では、本日開催の取締役会において、代表取締役社長の交代について決定しましたのでお知らせします。

記

■代表取締役社長の交代について

(1) 内容

<昇任>

代表取締役社長

嶋田 泰夫 (しまだ・やすお)

(現・常務取締役 経営企画部長)

<退任>

杉山 健博 (すぎやま・たけひろ)

(現・代表取締役社長)

【以上 2022年4月1日付】

(2) 理由

阪急阪神ホールディングスグループでは、現在、長期ビジョンのアップデート等を進めており、今後ニューノーマル時代に向けて、グループの各事業で本格的な取組を推し進めていくこととなります。

それを受けて、当社現社長の杉山は、グループ CEO の角とともに、阪急阪神ホールディングス社長としてグループ全体の経営戦略の推進に一層注力するとともに、グループの中核会社である当社では、新社長の嶋田が中心となり、より機動的でスピーディーな事業運営を実現していくため、両社の役割分担による経営体制を整備することとします。

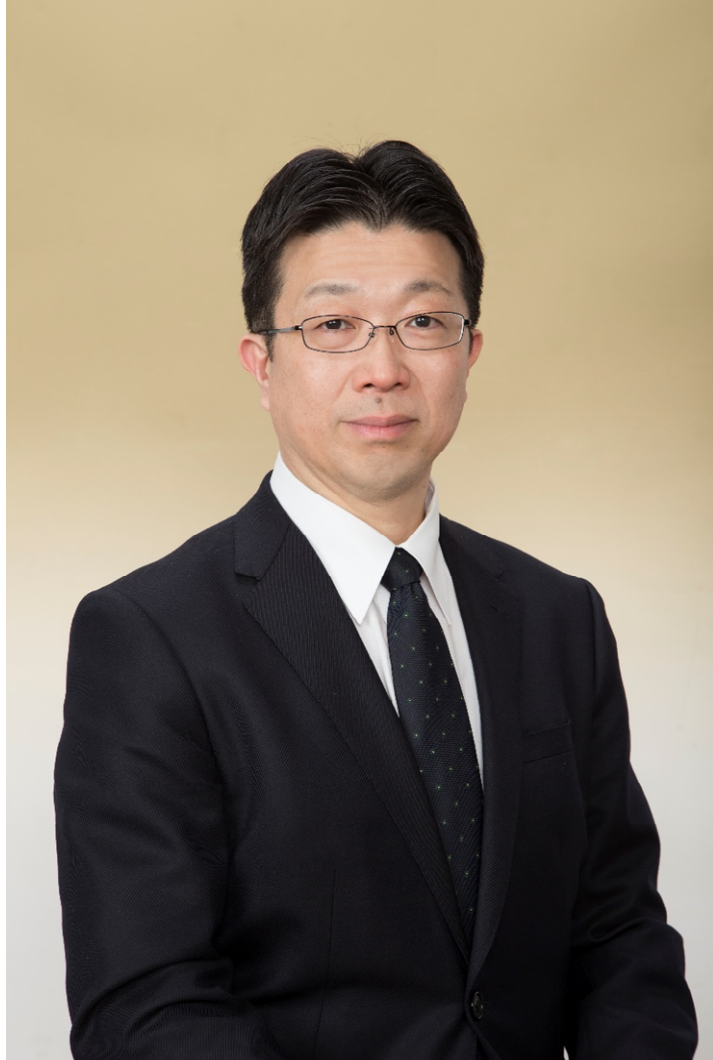
(3) 新社長の略歴

別紙のとおり

【添付資料】新社長経歴書、新社長写真、会社コメント

【ニュースリリース配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、国土交通記者会

【添付資料】



阪急電鉄株式会社

しま だ やす お
嶋 田 泰 夫

【添付資料】

2022年1月14日

阪急電鉄株式会社

広 報 部

<ご参考> 社長交代（4月1日付）決定にあたっての会社コメント

阪急阪神ホールディングスグループでは、新型コロナウイルス収束後のニューノーマル時代への対応を見据え、将来的に持続的成長が可能な企業グループを目指して、長期ビジョンのアップデートに取り組んでいるところですが、2022年度には、この長期ビジョンの内容を明らかにし、その達成に向けてグループの各事業で、本格的な取組を推し進めていくこととなります。

このような状況の下、阪急阪神ホールディングスおよびその傘下で事業を担う阪急電鉄ほかの中核会社において、それぞれの役割をより効果的に実行していくための経営体制を整備することとしました。

すなわち、阪急阪神ホールディングスにおいては、角（グループ CEO）と杉山（社長）が中心となり、よりスピード感を持ってグループ全体の経営推進に取り組むとともに、グループの中核会社として都市交通・不動産の主要事業を担う、阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産の各社においては、阪急電鉄は角（会長）・嶋田（新社長）、阪神電気鉄道は藤原（会長）・秦（社長）、阪急阪神不動産は杉山（会長）・諸富（社長）による経営体制とすることにより、各中核各社においても一層機動的でスピーディーな事業運営の実現を図っていくこととしました。

今後とも、新体制となる阪急阪神ホールディングスグループにご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

以 上